

平成27年度「県民参加による水と緑の森づくり事業」

～水と緑に恵まれた県土の形成と心豊かな県民生活の実現～

当初計画額 3億9,299万円
(うち全国植樹祭関連 1,586万円)

富山県森づくりプラン後期計画（H24～28年度）の概要

○里山林や混交林整備、森づくりの参加人数に目標を設定し、とやまの森づくりを推進

【里山林や混交林の整備面積】

区分	前期実績 H19-23	後期計画						全体 H19-28
		実績・見込み			計画			
		H24	H25	H26	H27	H28	H24-28 計	
里山林 整備 〈新規地区数〉	1,296 〈156〉	260 〈34〉	237 〈26〉	318 〈26〉	282 〈27〉	207 〈45〉	1,304 〈158〉	2,600 〈314〉
混交林 整備	693	165	148	112	108	274	807	1,500

単位：ha

【森づくりの年間参加延べ人数】

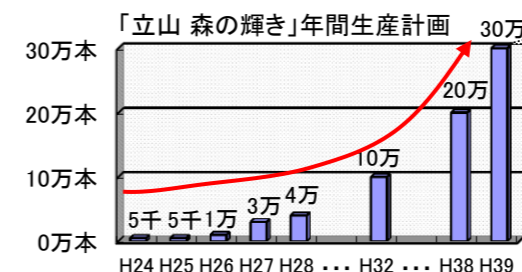
年度	H19	H23	H25	H26	H28 目標
参加人数	6,920	10,775	11,270	11,395	12,000
サポート センター 登録団体	43団体 (2,903人) 11企業	83団体 (3,205人) 45企業	99団体 (4,052人) 50企業	111団体 (4,412人) 50企業	

単位：人

○後期計画の新たな取り組み

【優良無花粉スギ「立山 森の輝き」の普及】

花粉症対策の一環として、本県で開発した優良無花粉スギ「立山 森の輝き」の普及を推進
①花粉飛散に強い影響を及ぼしている区域を対象に、「立山 森の輝き」の植栽、初期保育を支援
②「立山 森の輝き」を県内外に広く普及するため、苗木の大量生産体制を整備



・年間30万本の生産体制をH39年度までに整備する。(H38年度20万本)



県内外で「立山 森の輝き」を普及PR

【カシノナガキクイムシの被害跡地の復旧】

奥山のカシノナガキクイムシによる被害跡地において、ミズナラなど実のなる木を植栽し、森林の公益的機能やクマなどの野生動物の餌場を確保

・里山林:県民協働による整備を推進
・混交林:過密林、風雪被害林及び竹林の侵入した人工林で整備を実施

・参加者の定着を図るとともに、潜在的な意欲のある新たな参加者の増加を目標に設定

多様な森づくりの推進

□ 里山再生整備事業 【1億6,090万円】

県民協働による、里山林の整備(282ha,27地区)を推進
里山林の継続的な管理・利用を推進するため、里山地区のリーダーを養成
カシノナガキクイムシ等の森林病虫害などによる枯損木を除去



地域住民による里山林の整備

□ みどりの森再生事業 【1億62万円】

風雪被害林や過密人工林、竹林が侵入した人工林を整備し、混交林に誘導(113ha)
森づくり事業や全国植樹祭で使用する県産広葉樹苗を県民協働で育成



過密人工林を混交林へ誘導

□ 実のなる木の植栽事業 【820万円】

カシノナガキクイムシの被害を受けた奥山を対象に実のなる木を植栽(8,000本)

□ 優良無花粉スギ「立山 森の輝き」普及推進事業 【4,515万円】

スギ人工林伐採跡地への植栽(15ha,3万本)、初期保育を支援
種子による苗木の大量生産
県内や首都圏での普及PR



「立山 森の輝き」の植栽

県民全体で支える森づくりの推進と、森づくりの評価・改善

□ 水と緑の森づくり推進事業 【583万円】

水と緑の森づくり会議及び森林審議会森づくり部会を開催
森づくりに関する県民意識調査を実施
県民参加の森づくりフェアの開催(5/22 入善町五十里地内)



水と緑の森づくり会議の開催

とやまの森を支える人づくりなどの推進

□ とやまの森づくりサポートセンター活動推進事業 【3,039万円】

森林ボランティア活動を専門的・総合的に支援
森づくり活動機器(ヘルメット、ノコギリ、チップパー機など)の貸出や保険料を支援
森林ボランティアの施業技術の習得・向上等のため森づくり塾を開催(30回)
サポートセンター設立10周年を記念し、森林ボランティア等の活動を紹介する広報誌を発行



サポートセンターによる森づくり用機器の貸出し

□ とやまの森づくり普及啓発推進事業 【580万円】

森づくりへの理解を深めるため「森の寺子屋」を開催(120回)
フォレストリーダーの指導力向上のための研修を実施



森の寺子屋の開催

□ 県民による森づくり提案事業 【500万円】

県民が企画、実践する森づくり活動を支援



県民の提案による森づくり活動

□ 県産材利用促進事業 【2,660万円】

県産材の活用を促進するためPR効果の高い木造公共施設の新築を支援
公共施設の内装木質化や木製品の導入等を支援
木育推進のための遊具・積木の保育園等への導入を支援
全国植樹祭等で使用する県産材ベンチ・プランターの製作
全国植樹祭のシンボルとなるお野立て所の建築



全国植樹祭等で使用する県産材ベンチ

□ とやまの森づくり総合情報システム事業 【450万円】

「とやまの森づくり総合情報システム」により森づくり事業の成果を県民に提供

④水と緑の森づくり事業

01 水と緑の森づくり推進事業

⑧森づくり県民意識調査費

1 目的

H27年度は、「富山県森づくりプラン」の策定後9年目（計画期間10年）、「水と緑の森づくり税」の見直し後4年目（課税期間5年）を向かえ、これまで取組んできた森づくりに対する県民の意識等を踏まえ、県民が求める施策等を検討する必要があるため県民意識調査を行うもの。

2 内容

(1) 調査区域

県内全域

(2) 実施期間

平成27年11月～12月頃

(3) 調査方法

郵送返送方式

(4) 調査対象

① 県民 満20歳以上の男女2,500名（住民基本台帳より無作為抽出）

② 企業 県内企業1,000社の代表（商工会議所役員、経済同友会会員、経済団体名簿より無作為抽出した者）

(5) 調査項目

- ・ これまでの森づくりの取組みについて
- ・ 今後の森づくりについて
- ・ 水と緑の森づくり税について（課税期間、費用負担等） など

3 事業主体

県（民間調査会社に委託）

【参考】富山県森づくりプランの概要

【計画期間】 H19～28年度（10年間）

【主な取組み内容】

- ・ 里山林や混交林の整備
- ・ 森林ボランティア活動への支援
- ・ H24からの新たな取組みとして、カシガキイシの被害跡地への実のなる木の植栽や、優良無花粉スギ「立山 森の輝き」の普及推進



- 【今後の予定】
- ・ H27 新たな森づくりプラン（素案）の策定
 - ・ H28 新たな森づくりプランの策定
 - ・ H29 新たな森づくりプランの開始

とやまの森づくりサポートセンター活動推進事業

新 ボランティア等育成事業費

1 趣 旨

平成17年10月にとやまの森づくりサポートセンターが設立され、来年で10周年となることから、これまでの活動内容を振り返る(総括する)とともに、県内ボランティアの交流をさらに促進し、次の10年の森林ボランティア活動をより活発にする(継続する)ための起点となる広報誌を発行するもの。

2 とやまの森づくりサポートセンター10周年記念「サポセンのあゆみ(仮称)」発刊

サポートセンターに登録している団体・企業の取り組みについて紹介し、新たな団体や企業の登録を促し、県民参加の森づくりを一層推進するための動機づけのツールとする。

【仕様案】 カラー 16P

【部 数】 10,000部

【配布先案】

県内企業
小中学校
森の寺子屋実施団体
里山再生整備事業地区等
各都道府県・市町村等

【内容(案)】

- I とやまの森づくりサポートセンターのあゆみ(10年間の活動状況)
- II 登録団体・企業のとrikumi
 - (1) 登録団体・登録企業の歩み
 - (2) 各団体・企業の声(活動紹介)
- III これからの森づくりボランティアの進むべき方向
 - (1) 団体による意見交換

3 事業主体 県(とやまの森づくりサポートセンターへ委託)

⑤水と緑の森づくり事業費 09 県産材利用促進事業

県産材ベンチ・プランターの製作及びお野立て所の建築

1 趣旨

平成 29 年春季の「第 68 回全国植樹祭」、本年 10 月の「全国豊かな海づくり大会」など、全国規模の大会が本県で開催されることから、県内外から多数の集客が見込まれる。この好機をとらえ、県産材の良さを広く PR し、とやまの森づくりにつながる県産材の利用促進を図るため、「水と緑の森づくり税」を活用して、各種大会で使用する県産材ベンチ・プランターの製作及び全国植樹祭のシンボル施設であるお野立て所の建築を行うもの。

2 事業内容

①(1) 県産材ベンチ・プランターの製作

全国植樹祭等の会場に設置するため、平成 26 年度に県が開発した、運搬・据付撤去・収納等利便性に優れた県産材のベンチ・プランターを製作する。

②(2) お野立て所の建築

大会の基本構想に基づき、富山県らしく、本県の伝統文化や木材産業を象徴するような、全国植樹祭のシンボルとなるお野立て所を建築する。

3 事業主体 県

4 スケジュール

	H26	H27	H28	H29
ベンチ	開発	300 基製作 → 10/24,25 海づくり大会で使用	1,100 基製作 →	第 68 回全国植樹祭
プランター	開発	1,000 基製作 →	4,000 基製作 →	
お野立て所		設計 →	建築 → 完成	

「第68回全国植樹祭」について

＜基本理念(要約)＞

県民参加の森づくりの一層の推進と森林の循環利用による林業再生を図るとともに、富山県の数多くの魅力を全国にアピールし、緑あふれる自然といきいきと人が輝くふるさとを未来へつなぎます。

基本方針は…

「県民参加の森づくり」のより一層の推進

県産材活用による林業・木材産業の振興

優良無花粉スギ「立山 森の輝き」の普及

「森づくり」と「海づくり」の連携

＜大会の概要＞

- 開催時期：平成29年（2017年）春季
- 開催会場：魚津桃山運動公園（魚津市出）
- 行事概要（先催県の例による主な内容）
 - 式典行事（プロローグ、記念式典、エピローグの3部構成）
 - 植樹行事：参加者による記念植樹
 - 関連行事：第46回全国林業後継者大会



魚津桃山運動公園

4 大会テーマ：『 かがやいて 水・空・緑のハーモニー 』

作者：濱田 典佳（はまだ のりか）さん（黒部市）

講評：・森・川・海という言葉を使わずに、立山連峰から富山湾までの輝きが映像のように浮かんでくるとともに、優良無花粉スギ「立山 森の輝き」や北陸新幹線「かがやき」が連想され、森づくりと海づくりの連携などの大会の基本方針も親しみやすい言葉で表現している。

5 シンボルマーク



作者：Shio Design 塩崎 歩美氏（「きときと君」のデザイナー）

制作意図：若葉とシャベルを手に植樹のお手伝いをする「きときと君」を中心に、周りに立山連峰から本県の豊かな森（優良無花粉スギ「立山 森の輝き」）、富山湾とそこに流れ込む川を配し、森づくりと海づくりを一体的にとらえ、豊かな自然を守り育て、輝くふるさと富山を未来へつなぐ県民の姿をイメージしている。

6 お手植えお手播き樹種

	《 お手植え樹種 》			《 お手播き樹種 》	
天皇陛下	タテヤマスギ 無花粉スギ「立山 森の輝き」	コシノヒガン 本県発祥の長寿のサクラ	ヒメコマツ アルペンルートの代表種	エドヒガン 日本を代表する長寿のサクラ	タブノキ 森と海を結ぶ象徴
皇后陛下	コシノフユザクラ 本県固有の二度咲きのサクラ	キタコブシ 雪国の春を象徴する花	ホオノキ 万葉集では富山でのみ詠歌	ヤマザクラ 菊と並び日本を象徴する花	マルバマンサク 合掌造りの木組みの結末材

7 開催規模：6,200人（県外1,200人、県内3,000人、本部員等2,000人）

8 主催：富山県、（公社）国土緑化推進機構